

【第7期南幌町総合計画】
町民アンケート調査結果報告書
(概要版)
＜令和7年度実施＞

令和8年4月

目 次

1	調査概要.....	1
2	主な結果.....	2
2.1	回答者の属性.....	2
2.2	南幌町の暮らしやすさ	3
2.3	南幌町のまちづくりに係る施策に対する満足度	6
2.4	町民の幸福感や地域における暮らしやすさに対する認識	11
2.5	「新規移住した若年者」と「居住年数の長い高齢者」の比較分析	15
3	まとめ.....	26
3.1	論点 1 町への愛着と定住意向	26
3.2	論点 2 生活環境に対するニーズと満足度	26
3.3	論点 3 地域とのつながりと、多様な主体が働き・活躍しやすい環境	27
3.4	論点 4 新規移住した若年者における子育て・家庭生活を起点とした価値観	28
3.5	論点 5 居住年数の長い高齢者における生活基盤と地域とのつながりを起点とした価値観	29
4	参考.....	30
4.1	新規移住した若年者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度、幸福感や地域における暮らしやすさに関するモデル	30
4.2	居住年数の長い高齢者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度、幸福感や地域における暮らしやすさに関するモデル	32

1 調査概要

1.1 調査の趣旨

南幌町では、平成29年度に策定した「第6期南幌町総合計画」に基づき、各種施策を推進してきたが、10年間の計画期間が令和8年度までとなっており、これまでの取組みを点検しながら、これからのまちづくりを方向づけていくため、「第7期南幌町総合計画」を策定する。

策定にあたり、町民の考える「住みよいまち」とはどのようなまちか、またこれからのまちづくりに関するご意見などをお聞かせいただき、より地域の実情と個性を反映した実効性のある総合計画策定の基礎資料とするため、本調査を実施した。

なお、本稿においては、調査項目のうち特に次期総合計画策定の参考になると考えられる項目を抽出して整理した。

1.2 調査の実施

令和7年7月1日を基準日に、南幌町の18歳以上の町民の中から1,100名を無作為に抽出、調査対象者とし、郵送による調査票の配布・回収、及びオンラインフォームによる回答を受け付けた。

調査期間は、令和7年8月29日～9月26日までとした。

1.3 回答状況

配布数1,100件に対し、有効回答484件が得られた（回答率：44.0%）。

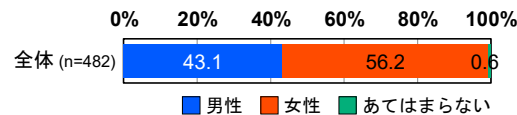
2 主な結果

2.1 回答者の属性

1) 性別

「男性（43.1%）」、「女性（56.2%）」、「あてはまらない（0.6%）」であり、女性が半数以上を占める。令和7年1月時点の南幌町の総人口によれば、男性48.2%、女性51.8%となり、母集団と比較して大きな偏りはみられない。

問1：性別は何ですか

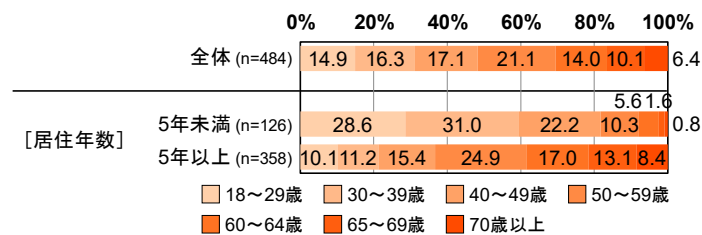


2) 年齢

全体では、「50～59歳（21.1%）」、「40～49歳（17.1%）」、「30～39歳（16.3%）」の順に割合が高く、働き盛りの世代が多く回答している。

居住年数別では、5年未満では「30～39歳（31.0%）」が最も高く、次いで「18～29歳（28.6%）」が多い。5年以上では「50～59歳（24.9%）」が最も高く、比較的年齢層が高い傾向にある。

問2：年齢は何ですか

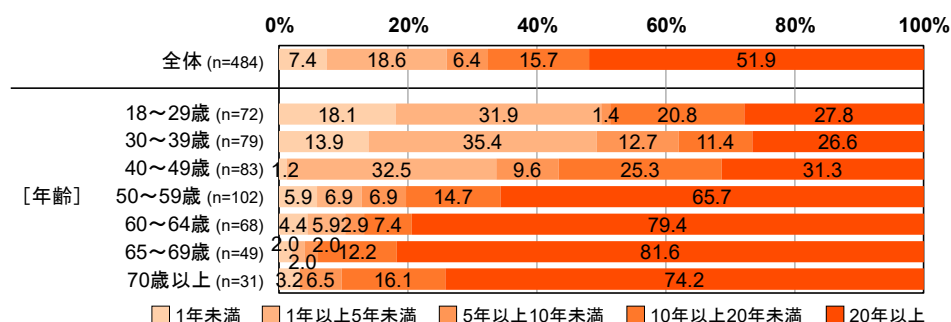


3) 居住年数

全体では、「20年以上（51.9%）」が最も多く、長期居住者が半数以上を占めている。「1年以上5年未満（18.6%）」、「10年以上20年未満（15.7%）」が続く。

年齢別では、18～39歳では「1年以上5年未満」が最多で短期居住が中心である一方、50歳以上では「20年以上」の割合が6割を超え、高齢層ほど長期にわたり居住している傾向がみられる。

問6：南幌町にお住まいになって何年になりますか

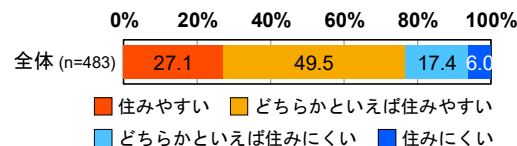


2.2 南幌町の暮らしやすさ

1) 住みやすさ

「住みやすい (27.1%)」と「どちらかといえば住みやすい (49.5%)」を合わせて約 8 割を占め、多くの町民が南幌町を住みやすいと感じている。「どちらかといえば住みにくい (17.4%)」、「住みにくい (6.0%)」と回答した人は 2 割程度にとどまっている。

問14：南幌町は住みよいまちだと思いますか

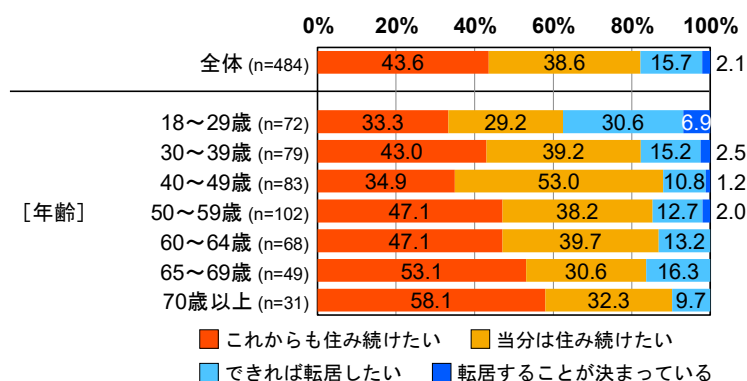


2) 将来の定住意欲

全体では、「これからも住み続けたい (43.6%)」と「当分は住み続けたい (38.6%)」を合わせて約 8 割に達し、多くの町民が南幌町に住み続ける意向を示している。「できれば転居したい (15.7%)」、「転居することが決まっている (2.1%)」といった転居志向は少数にとどまる。

年齢別では、18～29歳は「できれば転居したい (30.6%)」、「転居することが決まっている (6.9%)」が最多であり、若年層ほど転居志向が強い。一方、30歳以上は「これからも住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせて 8 割以上を占め、特に65歳以上は「これからも住み続けたい」が 5 割超である。

問15-1：これからも南幌町に住み続けたいと思いますか



3) 転居したいと思う理由（「できれば転居したい」と回答した方のみ）

転居を希望する理由として最も多いのは「買い物が不便（69.7%）」であり、「医療・保健福祉の不安（46.1%）」、「冬の除雪が大変（46.1%）」が続いている。「通勤・通学が不便（44.7%）」、「仕事や働き先がない（39.5%）」も4割程度と高く、就業環境も転居理由として一定の重みを持つ。

年齢別では、18～29歳で「買い物が不便（90.9%）」、「通勤・通学が不便（77.3%）」が特に高く、30～39歳では「買い物が不便（75.0%）」が高いほか、「通勤・通学が不便（66.7%）」、「仕事・働き先がない（66.7%）」が大きな割合を占める。50～64歳では「買い物が不便」に加え、「医療・保健福祉の不安」、「冬の除雪が大変」が高く、年代により理由が明確に分かれている。

居住年数別では、5年未満・5年以上とも「買い物が不便」、「冬の除雪が大変」、「通勤・通学が不便」、「医療・保健福祉の不安」が中心を占める。5年未満では「子育て・教育環境の不安（35.3%）」、5年以上では「仕事・働き先がない（42.4%）」の割合も高く、居住年数により理由が異なる。

年齢別・居住年数別クロス集計結果

		通勤・ 通学が 不便	家庭の 事情	医療・ 保健福 祉の不 安	冬の除 雪が大 変	買い物 が不便	子育て ・教育 環境の 不安	仕事・ 働き先 がない	まち・ 人にな じめな い	その他
全体（n=76）		44.7	7.9	46.1	46.1	69.7	13.2	39.5	10.5	7.9
年齢別	18～29 歳（n=22）	77.3	4.5	22.7	40.9	90.9	22.7	40.9	13.6	9.1
	30～39 歳（n=12）	66.7	8.3	33.3	25.0	75.0	16.7	66.7	8.3	0.0
	40～49 歳（n=9）	22.2	11.1	55.6	55.6	44.4	22.2	44.4	11.1	11.1
	50～59 歳（n=13）	30.8	23.1	69.2	69.2	69.2	7.7	46.2	23.1	0.0
	60～64 歳（n=9）	22.2	0.0	44.4	66.7	55.6	0.0	33.3	0.0	33.3
	65～69 歳（n=8）	12.5	0.0	75.0	25.0	62.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	70 歳以上（n=3）	0.0	0.0	66.7	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
居住 年数別	5 年未満（n=17）	47.1	11.8	41.2	52.9	76.5	35.3	29.4	17.6	17.6
	5 年以上（n=59）	44.1	6.8	47.5	44.1	67.8	6.8	42.4	8.5	5.1

4) 今後の人口減少を抑えるために重点的にすべきと思う取組み

全体では、「公共交通機関の充実（79.5%）」が最も多く、「店舗など商業施設の誘致（60.8%）」、「医療・保健福祉の充実（57.4%）」が続いている。生活に直結する移動手段、買い物環境などへのニーズが特に強い。

年齢別では、18～29歳で「店舗など商業施設の誘致（77.8%）」、30～39歳で「子育て支援や教育環境の充実（60.8%）」、65～69歳で「医療・保健福祉の充実（73.5%）」、「除排雪体制の強化（40.8%）」、70歳以上で「環境を意識したまちづくり（29.0%）」が全体に比べて多いなど、ライフステージにより重視する施策が異なる。

居住年数別では、5年未満・5年以上ともに「公共交通機関の充実」が最も多い。5年未満では、「店舗など商業施設の誘致（71.4%）」、5年以上では「医療・保健福祉の充実（56.4%）」が続くなど、居住年数に応じて重視する施策に違いがみられる。

年齢別・居住年数別クロス集計結果

		公共交通機関の充実	医療・保健福祉の充実	除排雪体制の強化	子育て支援や教育環境の充実	店舗など商業施設の誘致	賃貸住宅の整備	企業誘致など働く場づくり	スポーツ・文化・レジャー施設の充実	防災・防犯体制の強化	環境を意識したまちづくり	その他
全体（n=480）		79.5	57.4	28.4	43.0	60.8	16.1	45.3	19.4	15.9	16.7	4.2
年齢別	18～29歳（n=71）	81.9	48.6	26.4	51.4	77.8	25.0	36.1	20.8	6.9	8.3	4.2
	30～39歳（n=79）	79.7	45.6	22.8	60.8	67.1	21.5	43.0	26.6	13.9	13.9	3.8
	40～49歳（n=83）	78.3	54.2	24.1	43.4	61.4	20.5	44.6	19.3	21.7	15.7	8.4
	50～59歳（n=102）	81.4	60.8	31.4	27.5	61.8	13.7	44.1	15.7	16.7	18.6	5.9
	60～64歳（n=66）	76.5	64.7	25.0	47.1	47.1	5.9	54.4	17.6	14.7	20.6	0.0
	65～69歳（n=49）	79.6	73.5	40.8	32.7	51.0	8.2	42.9	22.4	20.4	16.3	0.0
	70歳以上（n=30）	64.5	54.8	32.3	29.0	35.5	9.7	54.8	6.5	16.1	29.0	3.2
居住年数別	5年未満（n=125）	74.6	57.9	26.2	58.7	71.4	20.6	47.6	25.4	12.7	14.3	6.3
	5年以上（n=355）	80.2	56.4	28.8	36.9	56.1	14.2	43.9	17.0	16.8	17.3	3.4

2.3 南幌町のまちづくりに係る施策に対する満足度

1) 「行財政分野：町民協働に支えられる自立したまちづくり」に対する満足度

「満足」、「やや満足」の合計を肯定的意見、「不満」、「やや不満」の合計を否定的意見とし、各施策の満足度を集計した。

肯定的意見は、「情報共有化の推進（57.1%）」、「広域行政の推進（42.2%）」、「行政改革の推進（40.2%）」が上位3項目を占め、情報共有や行政運営に関する施策の満足度が高い傾向にある。一方、否定的意見は、「広域行政の推進（34.5%）」、「町民参加・協働の推進（27.9%）」、「財政運営の健全化（27.1%）」が上位3項目となり、町民参加や財政運営に関する施策の満足度が低い傾向にある。「広域行政の推進」は、肯定的意見・否定的意見ともに上位3項目に入り、町民の満足度が二極化する傾向にある。

また、「わからない」は、7施策中5施策で最も多く、「自治体DXの推進（39.2%）」、「町民ニーズに対応できる職員の育成（38.7%）」、「町民参加・協働の推進（36.2%）」が上位3項目を占める。「わからない」との回答は、施策との接点が少ない、または施策内容の認知・理解が十分でないこと等により、評価が困難な状況を示すものと考えられ、「わからない」の割合が高い施策は、住民への周知や情報提供のあり方、施策の実感性の観点から課題がある可能性が示唆される。なお、後述する満足度評価についても「わからない」の回答は同様の考え方である。

「満足」・「やや満足」の合計が多い上位3項目（単位：%）

順位	項目	「満足」・「やや満足」の合計
1	項目 1-2 情報共有化の推進	57.1
2	項目 1-6 広域行政の推進	42.2
3	項目 1-5 行政改革の推進	40.2

「不満」・「やや不満」の合計が多い上位3項目（単位：%）

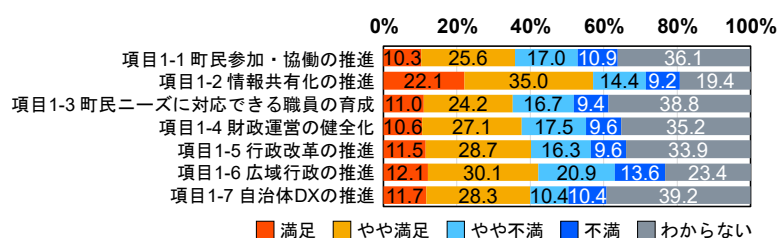
順位	項目	「不満」・「やや不満」の合計
1	項目 1-6 広域行政の推進	34.5
2	項目 1-1 町民参加・協働の推進	27.9
3	項目 1-4 財政運営の健全化	27.1

「わからない」が多い上位3項目（単位：%）

順位	項目	「わからない」の割合
1	項目 1-7 自治体DXの推進	39.2
2	項目 1-3 町民ニーズに対応できる職員の育成	38.7
3	項目 1-1 町民参加・協働の推進	36.2

参考：全ての項目のまちづくり満足度グラフ

問18：まちづくり満足度一覧 （町民協働に支えられる自立したまちづくり）



■ 満足 ■ やや満足 ■ やや不満 ■ 不満 ■ わからない

2)「産業経済分野：地域ぐるみで支え育てる活力ある経済産業のまちづくり」に対する満足度

肯定的意見は、「消費者との交流と食育の推進（44.7%）」、「環境と調和した活力ある農村の構築（33.8%）」、「収益性の高い農業の確立（32.6%）」が上位3項目を占め、農業振興施策の満足度が高い傾向がある。一方、否定的意見は、「地域交流の場となる商店街づくり（37.9%）」、「南幌に適した業種の誘致・育成（30.2%）」、「消費者との交流と食育の推進（29.2%）」が上位3項目となり、商工業振興施策の満足度が低い傾向がある。「消費者との交流と食育の推進」は、肯定的意見・否定的意見ともに上位3項目に入り、町民の満足度が二極化する傾向にある。

また、「わからない」は、7施策中6施策で最も多く、「経営基盤の強化に向けた担い手の育成（47.5%）」、「収益性の高い農業の確立（44.7%）」、「環境と調和した活力ある農村の構築（44.7%）」が上位3項目を占める。

「満足」・「やや満足」の合計が多い上位3項目（単位：％）

順位	項目	「満足」・「やや満足」の合計
1	項目 2-3 消費者との交流と食育の推進	44.7
2	項目 2-4 環境と調和した活力ある農村の構築	33.8
3	項目 2-1 収益性の高い農業の確立	32.6

「不満」・「やや不満」の合計が多い上位3項目（単位：％）

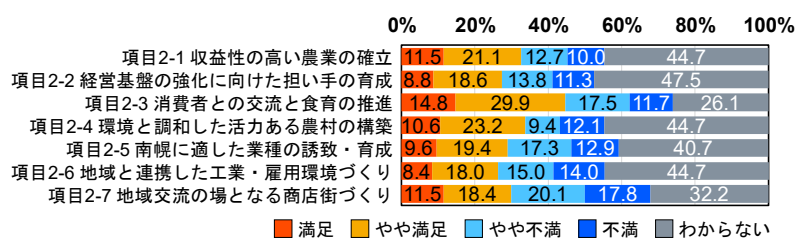
順位	項目	「不満」・「やや不満」の合計
1	項目 2-7 地域交流の場となる商店街づくり	37.9
2	項目 2-5 南幌に適した業種の誘致・育成	30.2
3	項目 2-3 消費者との交流と食育の推進	29.2

「わからない」が多い上位3項目（単位：％）

順位	項目	「わからない」の割合
1	項目 2-2 経営基盤の強化に向けた担い手の育成	47.5
2	項目 2-1 収益性の高い農業の確立	44.7
3	項目 2-4 環境と調和した活力ある農村の構築	44.7

参考：全ての項目のまちづくり満足度グラフ

問18：まちづくり満足度一覧 （地域ぐるみで支え育てる活力ある経済産業のまちづくり）



3)「教育・文化分野：地域に根差した教育と文化の高いまちづくり」に対する満足度

肯定的意見は、「スポーツ・レクリエーション活動の充実(48.6%)」、「読書活動の充実(48.0%)」、「家庭教育支援の充実(44.9%)」が上位3項目を占め、スポーツや読書等の活動機会に関する施策の満足度が高い傾向がある。一方、否定的意見は、「家庭教育支援の充実(25.1%)」、「社会教育の充実(22.5%)」、「学校教育の充実(22.4%)」が上位3項目となり、学校教育や社会教育、家庭教育支援等に関する施策の満足度が低い傾向がある。「家庭教育支援の充実」は、肯定的意見・否定的意見ともに上位3項目に入り、町民の満足度が二極化する傾向にある。

また、「わからない」は、11施策中10施策で最も多く、「青少年健全育成の充実(41.8%)」、「社会教育の充実(40.6%)」、「国際社会で活躍する人材の育成(39.9%)」が上位3項目を占める。

「満足」・「やや満足」の合計が多い上位3項目(単位：%)

順位	項目	「満足」・「やや満足」の合計
1	項目 3-8 スポーツ・レクリエーション活動の充実	48.6
2	項目 3-11 読書活動の充実	48.0
3	項目 3-1 家庭教育支援の充実	44.9

「不満」・「やや不満」の合計が多い上位3項目(単位：%)

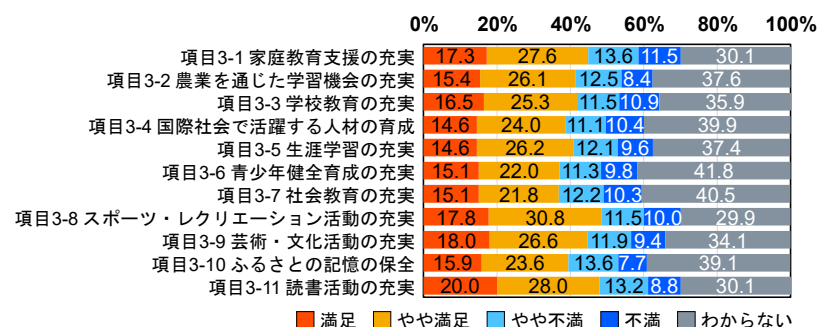
順位	項目	「不満」・「やや不満」の合計
1	項目 3-1 家庭教育支援の充実	25.1
2	項目 3-7 社会教育の充実	22.5
3	項目 3-3 学校教育の充実	22.4

「わからない」が多い上位3項目(単位：%)

順位	項目	「わからない」の割合
1	項目 3-6 青少年健全育成の充実	41.8
2	項目 3-7 社会教育の充実	40.6
3	項目 3-4 国際社会で活躍する人材の育成	39.9

参考：全ての項目のまちづくり満足度グラフ

問18：まちづくり満足度一覧 (地域に根差した教育と文化の高いまちづくり)



4)「保健福祉・医療分野：健康で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり」に対する満足度

肯定的意見は、「感染症予防対策の推進と充実(55.5%)」、「成人保健対策の推進と充実(55.4%)」、「母子保健対策の推進と充実(45.0%)」が上位3項目を占め、予防・保健施策の満足度が高い傾向がある。一方、否定的意見は、「地域医療の確保(診療体制の確保)(42.3%)」、「地域医療の確保(救急体制の確保)(27.1%)」、「地域で暮らすための支援(21.7%)」が上位3項目となり、医療体制や地域で暮らすための支援に関する施策の満足度が低い傾向がある。

また、「わからない」は、12施策中9施策で最も多く、「障がい・精神福祉の充実(47.0%)」、「地域福祉活動の推進(45.8%)」、「地域包括ケアシステムの充実(44.9%)」が上位3項目を占める。

「満足」・「やや満足」の合計が多い上位3項目(単位：%)

順位	項目	「満足」・「やや満足」の合計
1	項目4-4 感染症予防対策の推進と充実	55.5
2	項目4-3 成人保健対策の推進と充実	55.4
3	項目4-5 母子保健対策の推進と充実	45.0

「不満」・「やや不満」の合計が多い上位3項目(単位：%)

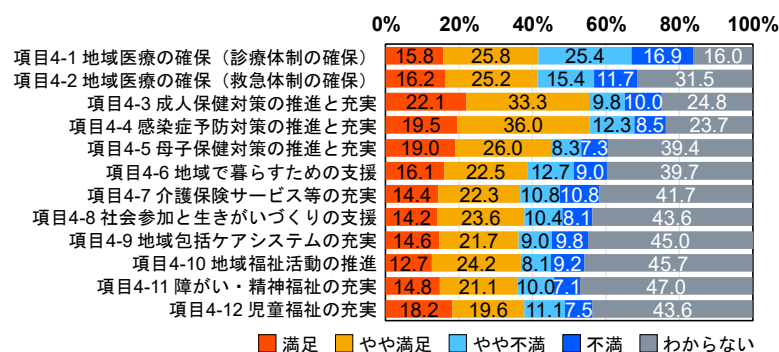
順位	項目	「不満」・「やや不満」の合計
1	項目4-1 地域医療の確保(診療体制の確保)	42.3
2	項目4-2 地域医療の確保(救急体制の確保)	27.1
3	項目4-6 地域で暮らすための支援	21.7

「わからない」が多い上位3項目(単位：%)

順位	項目	「わからない」の割合
1	項目4-11 障がい・精神福祉の充実	47.0
2	項目4-10 地域福祉活動の推進	45.8
3	項目4-9 地域包括ケアシステムの充実	44.9

参考：全ての項目のまちづくり満足度グラフ

問18：まちづくり満足度一覧 (健康で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり)



5) 「生活環境分野：安心して楽しく暮らせる快適な生活環境のまちづくり」に対する満足度

肯定的意見は、「緑の保全と緑化の推進（57.6%）」、「雪に強い生活環境づくり（56.1%）」、「豊かで快適な住宅・住環境づくり（52.4%）」が上位3項目を占め、生活環境や住環境の充実に関する施策の満足度が高い傾向がある。一方、否定的意見は、「広域交通網の整備（37.4%）」、「ごみ処理体制の充実（35.4%）」、「地域公共交通網の利便性向上（35.3%）」が上位3項目となり、公共交通・ごみ処理等の生活基盤に関する施策の満足度が低い傾向がある。

また、「わからない」は、15施策中8施策で最も多く、「環境を意識した循環型社会の形成（52.2%）」、「地域間交流の促進（39.5%）」、「水環境の保全（37.9%）」が上位3項目を占める。

「満足」・「やや満足」の合計が多い上位3項目（単位：％）

順位	項目	「満足」・「やや満足」の合計
1	項目 5-1 緑の保全と緑化の推進	57.6
2	項目 5-4 雪に強い生活環境づくり	56.1
3	項目 5-3 豊かで快適な住宅・住環境づくり	52.4

「不満」・「やや不満」の合計が多い上位3項目（単位：％）

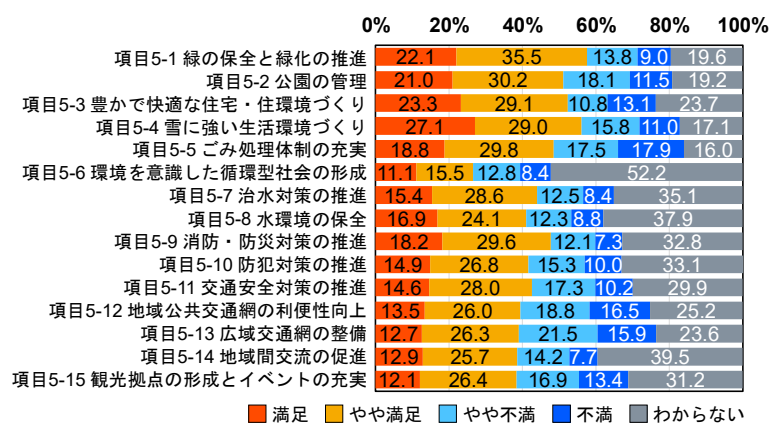
順位	項目	「不満」・「やや不満」の合計
1	項目 5-13 広域交通網の整備	37.4
2	項目 5-5 ごみ処理体制の充実	35.4
3	項目 5-12 地域公共交通網の利便性向上	35.3

「わからない」が多い上位3項目（単位：％）

順位	項目	「わからない」の割合
1	項目 5-6 環境を意識した循環型社会の形成	52.2
2	項目 5-14 地域間交流の促進	39.5
3	項目 5-8 水環境の保全	37.9

参考：全ての項目のまちづくり満足度グラフ

問18：まちづくり満足度一覧 (安心して楽しく暮らせる快適な生活環境のまちづくり)

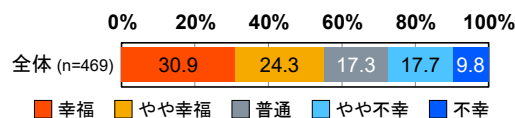


2.4 町民の幸福感や地域における暮らしやすさに対する認識

1) 現在の幸福度¹

「幸福（８～１０点）」は30.9%、「やや幸福（６～７点）」は24.3%、「普通（５点）」は17.3%となっており、幸福感が中～高程度の層が７割程度を占めている。一方で、「不幸（０～２点）」は9.8%、「やや不幸（３～４点）」は17.7%となっており、幸福感が低い層も３割程度存在している。

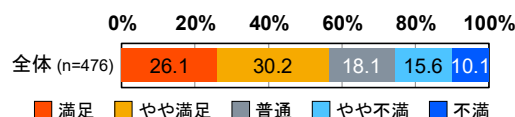
問19：現在、どの程度幸せですか



2) 現在の暮らしに対する満足度²

「満足（８～１０点）」は26.1%、「やや満足（６～７点）」は30.2%、「普通（５点）」は18.1%となっており、７割程度が中～高程度の満足感を示している。一方で、「不満（０～２点）」は10.1%、「やや不満（３～４点）」は15.6%となっており、満足感が低い層も３割程度存在している。

問22：現在、住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか



3) 生活環境に対する満足度

「非常にあてはまる」、「ある程度あてはまる」の合計を肯定的意見、「全くあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計を否定的意見とし、各項目の満足度を集計した。

肯定的意見は、「自宅には、心地良い居場所がある（61.7%）」、「身近に自然を感じることができる（60.1%）」、「自宅の周辺では、騒音に悩まされている³（58.6%）」が上位３項目を占め、生活環境や住環境の満足度が高い傾向がある。一方、否定的意見は、「公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる（67.4%）」、「楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある（60.1%）」、「飲食を楽しむ場所が充実している（59.1%）」が上位３項目となり、公共交通や日常生活の利便性の満足度が低い傾向がある。

また、「どちらともいえない」は、27項目中10項目で最も多く、「仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい（45.7%）」、「行政サービスのデジタル化が進んでいる（41.2%）」、「リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである（40.2%）」が上位３項目を占める。

¹ アンケートで得られた回答のうち、０～２点を「不幸」、３～４点を「やや不幸」、５点を「普通」、６～７点を「やや幸福」、８～１０点を「幸福」と定義し、グラフを作成した。

² アンケートで得られた回答のうち、０～２点を「不満」、３～４点を「やや不満」、５点を「普通」、６～７点を「やや満足」、８～１０点を「満足」と定義し、グラフを作成した。

³ この設問は肯定的な回答と否定的な回答がほかの設問と逆転しているため、「騒音に悩まされていない」方の割合をほかの設問での肯定側「非常にあてはまる・ややあてはまるの合計」、「騒音に悩まされている」方の割合をほかの設問での否定側「全くあてはまらない・あまりあてはまらないの合計」に記載している。

「非常にあてはまる」・「ある程度あてはまる」の合計が多い上位3項目（単位：％）

順位	項目	「非常にあてはまる」・ 「ある程度あてはまる」の合計
1	問 24-5 自宅には、心地良い居場所がある	61.7
2	問 24-24 身近に自然を感じることができる	60.1
3	問 24-6 自宅の近辺では、騒音に悩まされている	58.6

「全くあてはまらない」・「あまりあてはまらない」の合計が多い上位3項目（単位：％）

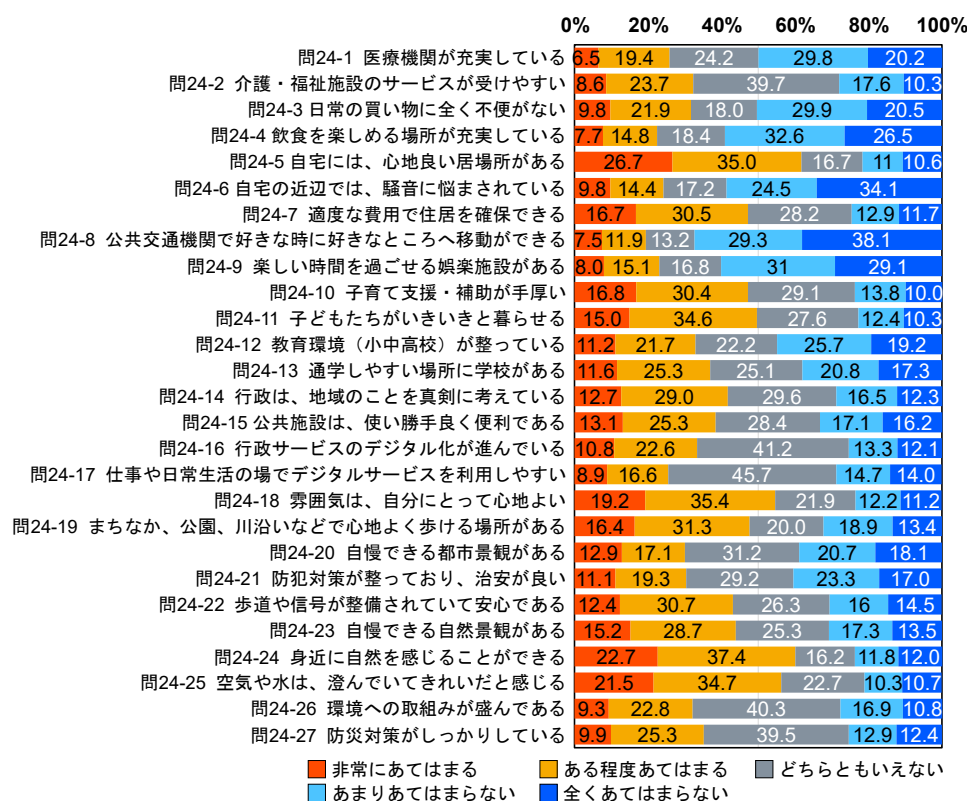
順位	項目	「全くあてはまらない」・ 「あまりあてはまらない」の合計
1	問 24-8 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる	67.4
2	問 24-9 楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある	60.1
3	問 24-4 飲食を楽しめる場所が充実している	59.1

「どちらともいえない」が多い上位3項目（単位：％）

順位	項目	「どちらともいえない」の割合
1	問 24-17 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	45.7
2	問 24-16 行政サービスのデジタル化が進んでいる	41.2
3	問 24-26 リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである	40.2

参考：生活環境に対する全ての項目の満足度グラフ

問24：生活環境満足度一覧



4) 人間関係に対する満足度

肯定的意見は、「町内の人が困っていたら手助けする（53.7%）」、「同じ町内に住む人たちを信頼している（45.9%）」、「町内に対して愛着を持っている（45.7%）」が上位3項目を占め、地域への愛着や支え合いに関する満足度が高い傾向がある。一方、否定的意見は、「見知らぬ他者であつても信頼する（55.2%）」、「町内の人が自分をどう思っているか気になる（49.6%）」、「若者が活躍しやすい（38.0%）」が上位3項目となり、対人関係の安心感や活躍のしやすさに関する満足度が低い傾向がある。

また、「どちらともいえない」は、10項目中5項目で最も多く、「女性が活躍しやすい（46.0%）」、「どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある（43.1%）」、「若者が活躍しやすい（37.0%）」が上位3項目を占める。

「非常にあてはまる」・「ある程度あてはまる」の合計が多い上位3項目（単位：%）

順位	項目	「非常にあてはまる」・ 「ある程度あてはまる」の合計
1	問 25-4 町内の人が困っていたら手助けする	53.7
2	問 25-1 同じ町内に住む人たちを信頼している	45.9
3	問 25-5 町内に対して愛着を持っている	45.7

「全くあてはまらない」・「あまりあてはまらない」の合計が多い上位3項目（単位：%）

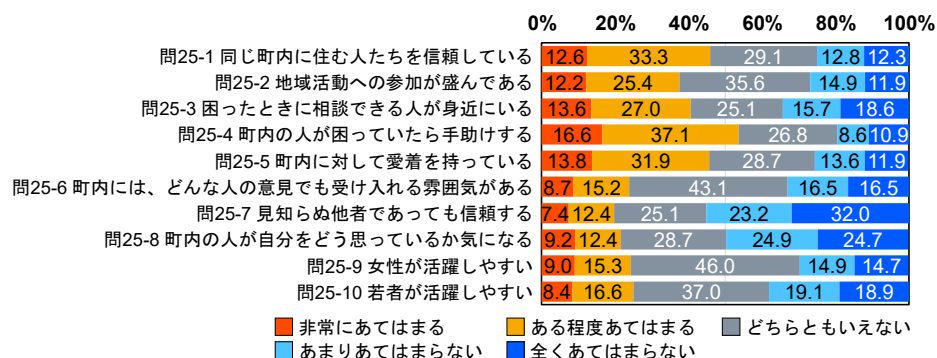
順位	項目	「全くあてはまらない」・ 「あまりあてはまらない」の合計
1	問 25-7 見知らぬ他者であつても信頼する	55.2
2	問 25-8 町内の人が自分をどう思っているか気になる	49.6
3	問 25-10 若者が活躍しやすい	38.0

「どちらともいえない」が多い上位3項目（単位：%）

順位	項目	「どちらともいえない」の割合
1	問 25-9 女性が活躍しやすい	46.0
2	問 25-6 どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある	43.1
3	問 25-10 若者が活躍しやすい	37.0

参考：人間関係に対する全ての項目の満足度グラフ

問25：人間関係満足度一覧



5) 自分らしい生き方に対する満足度

肯定的意見は、「将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい（64.0%）」、「精神的に健康な状態である（54.7%）」、「身体的に健康な状態である（48.8%）」が上位3項目を占め、心身の健康や価値観に関する満足度が高い傾向がある。一方、否定的意見は、「やりたい仕事を見つけやすい（60.4%）」、「適切な収入を得るための機会がある（56.4%）」、「新たなことに挑戦・成長するための機会がある（46.2%）」が上位3項目となり、就労や収入、挑戦・成長の機会に関する満足度が低い傾向がある。

また、「どちらともいえない」は、9項目中4項目で最も多く、「文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい（42.3%）」、「学びたいことを学べる機会がある（42.3%）」、「新たなことに挑戦・成長するための機会がある（33.5%）」が上位3項目を占める。

「非常にあてはまる」・「ある程度あてはまる」の合計が多い上位3項目（単位：%）

順位	項目	「非常にあてはまる」・ 「ある程度あてはまる」の合計
1	問 26-5 将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい	64.0
2	問 26-3 精神的に健康な状態である	54.7
3	問 26-2 身体的に健康な状態である	48.8

「全くあてはまらない」・「あまりあてはまらない」の合計が多い上位3項目（単位：%）

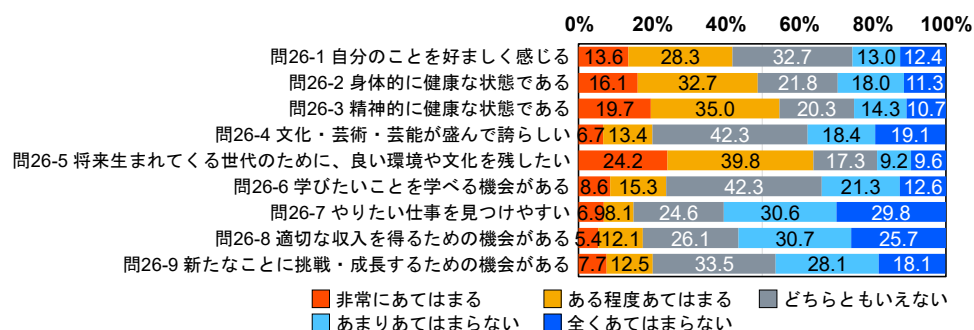
順位	項目	「全くあてはまらない」・ 「あまりあてはまらない」の合計
1	問 26-7 やりたい仕事を見つけやすい	60.4
2	問 26-8 適切な収入を得るための機会がある	56.4
3	問 26-9 新たなことに挑戦・成長するための機会がある	46.2

「どちらともいえない」が多い上位3項目（単位：%）

順位	項目	「どちらともいえない」の割合
1	問 26-4 文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい	42.3
1	問 26-6 学びたいことを学べる機会がある	42.3
3	問 26-9 新たなことに挑戦・成長するための機会がある	33.5

参考：自分らしい生き方に対する全ての項目の満足度グラフ

問26：自分らしい生き方満足度一覧



2.5 「新規移住した若年者」と「居住年数の長い高齢者」の比較分析⁴

町民アンケートの回答結果に基づき、年齢 50 歳未満かつ居住年数 5 年未満の町民を『新規移住した若年者』、年齢 50 歳以上かつ居住年数 5 年以上の町民を『居住年数の長い高齢者』と定義したところ、新規移住した若年者は 94 名、居住年数の長い高齢者は 185 名抽出された。これら 2 グループを対象に、まちづくりに係る施策に対する満足度、町民の幸福感や地域における暮らしやすさに対する認識について比較分析を行った。

1) 新規移住した若年者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度の傾向

前項『2.3 南幌町のまちづくりに係る施策に対する満足度』と同様に、「満足」、「やや満足」の合計を肯定的意見、「不満」、「やや不満」の合計を否定的意見とし、各施策の満足度を集計した。集計後、居住年数の長い高齢者と比較して回答率が高い項目をプラス、回答率が低い項目をマイナスとして算出した。

新規移住した若年者では、居住年数の長い高齢者と比較し、肯定的意見は、「自治体DXの推進（+13.2%）」、「財政運営の健全化（+5.8%）」、「経営基盤の強化に向けた担い手の育成（+4.3%）」、「児童福祉の充実（+4.2%）」、「農業を通じた学習機会の充実（+3.7%）」が上位 5 項目を占め、行政運営や農業人材の育成、子どもの学びに関する満足度が高い傾向にある。一方、否定的意見は、「家庭教育支援の充実（+17.7%）」、「ごみ処理体制の充実（+13.9%）」、「母子保健対策の推進と充実（+13.7%）」、「児童福祉の充実（+11.0%）」、「広域行政の推進（+10.6%）」が上位 5 項目となり、子育て支援や生活基盤、行政サービスに関する満足度が低い傾向にある。

また、「わからない」は、「成人保健対策の推進と充実（+19.4%）」、「広域交通網の整備（+18.9%）」、「社会参加と生きがいつくりの支援（+16.5%）」、「介護保険サービス等の充実（+15.4%）」、「交通安全対策の推進（+15.1%）」が上位 5 項目を占める。

居住年数の長い高齢者と比較し、「満足」・「やや満足」の合計（数値差）が多い上位 5 項目（単位：%）

順位	項目	「満足」・「やや満足」 の合計	居住年数の長い高齢者 との数値差
1	項目 1-7 自治体 DX の推進	50.0	+ 13.2
2	項目 1-4 財政運営の健全化	40.4	+ 5.8
3	項目 2-2 経営基盤の強化に向けた担い手の育成	30.8	+ 4.3
4	項目 4-12 児童福祉の充実	43.6	+ 4.2
5	項目 3-2 農業を通じた学習機会の充実	40.4	+ 3.7

居住年数の長い高齢者と比較し、「不満」・「やや不満」の合計（数値差）が多い上位 5 項目（単位：%）

順位	項目	「不満」・「やや不満」 の合計	居住年数の長い高齢者 との数値差
1	項目 3-1 家庭教育支援の充実	40.4	+ 17.7
2	項目 5-5 ごみ処理体制の充実	44.7	+ 13.9
3	項目 4-5 母子保健対策の推進と充実	25.5	+ 13.7
4	項目 4-12 児童福祉の充実	23.4	+ 11.0
5	項目 1-6 広域行政の推進	43.6	+ 10.6

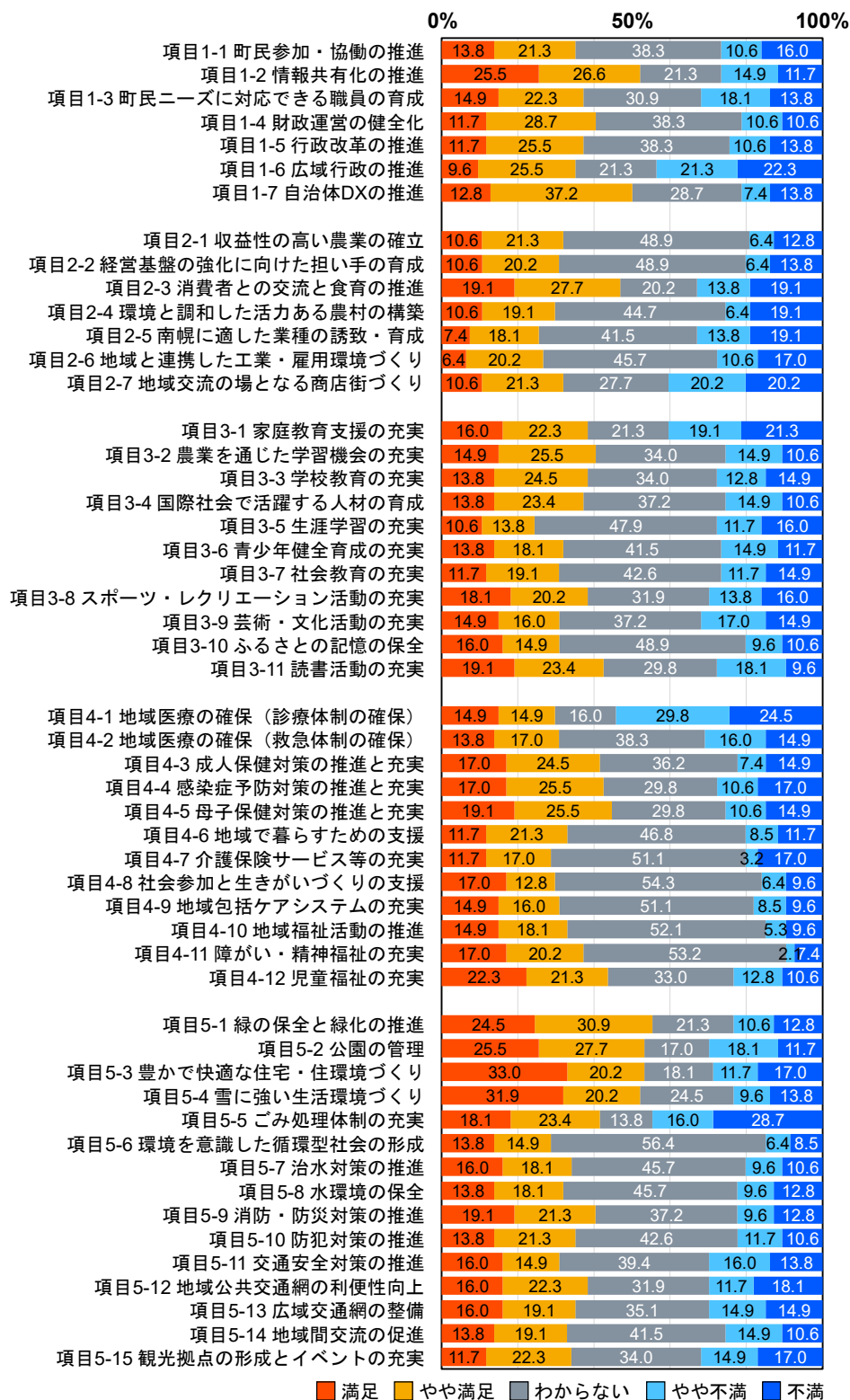
⁴ 町民アンケートにおいて、問 2「年齢」、問 6「居住年数」、問 15-1「定住意向」、問 18「施策満足度」、問 19～26「幸福度・生活満足度等」の設問で無回答がない回答者（n=418）を対象に、問 2 で『年齢が 50 歳未満』と回答かつ問 6 で『居住年数が 5 年未満』と回答した町民を『新規移住した若年者（n=94）』、問 2 で『年齢が 50 歳以上』と回答かつ問 6 で『居住年数が 5 年以上』と回答した町民を『居住年数の長い高齢者（n=185）』とそれぞれ定義した。

居住年数の長い高齢者と比較し、「わからない」が多い上位5項目（単位：％）

順位	項目	「わからない」の割合	居住年数の長い高齢者との数値差
1	項目 4-3 成人保健対策の推進と充実	36.2	+ 19.4
2	項目 5-13 広域交通網の整備	35.1	+ 18.9
3	項目 4-8 社会参加と生きがいづくりの支援	54.3	+ 16.5
4	項目 4-7 介護保険サービス等の充実	51.1	+ 15.4
5	項目 5-11 交通安全対策の推進	39.4	+ 15.1

参考：新規移住した若年者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度グラフ

問18：まちづくり満足度一覧（新規移住した若年者）



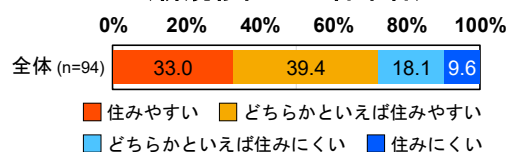
2) 新規移住した若年者における幸福感や地域における暮らしやすさに対する認識の傾向

暮らしやすさでは、「住みやすい (33.0%)」と「どちらかといえば住みやすい (39.4%)」を合わせて約7割を占め、新規移住した若年者の多くが南幌町を住みやすいと感じている。「どちらかといえば住みにくい (18.1%)」、「住みにくい (9.6%)」と回答した人は、3割未満となる。

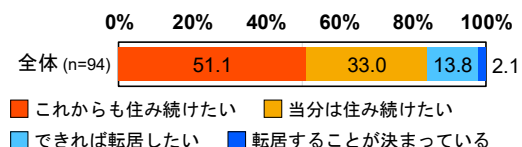
将来の定住意欲では、「これからも住み続けたい (51.1%)」と「当分は住み続けたい (33.0%)」を合わせて8割を超え、新規移住した若年者の多くが住み続ける意向を示している。「できれば転居したい (13.8%)」、「転居することが決まっている (2.1%)」といった転居志向は2割未満となる。

現在の幸福度では、「幸福 (8～10点)」は36.2%、「やや幸福 (6～7点)」は22.3%、「普通 (5点)」は12.8%となっており、幸福感が中～高程度の層が約7割を占めている。一方で、「不幸 (0～2点)」は10.6%、「やや不幸 (3～4点)」は18.1%となっており、幸福感が低い層も約3割存在している。

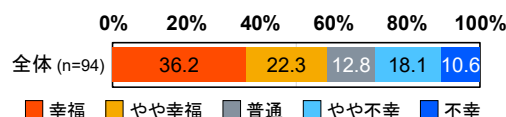
問14：南幌町は住みよいまちだと思いますか (新規移住した若年者)



問15-1：これからも南幌町に住み続けたいと思いますか (新規移住した若年者)



問19：現在、どの程度幸せですか (新規移住した若年者)



次に、前項『2.4 町民の幸福感や地域における暮らしやすさに対する認識』と同様に、「非常にあてはまる」、「ある程度あてはまる」の合計を肯定的意見、「全くあてはまらない」、「あまりあてはまらない」の合計を否定的意見とし、生活環境・人間関係・自分らしい生き方に関する項目の満足度を集計した。集計後、居住年数の長い高齢者と比較して回答率が高い項目をプラス、回答率が低い項目をマイナスとして算出した。

新規移住した若年者では、居住年数の長い高齢者と比較し、肯定的意見は、「若者が活躍しやすい (+15.2%)」、「地域活動への参加が盛んである (+14.8%)」、「町内の人が自分をどう思っているか気になる (+14.7%)」、「飲食を楽しめる場所が充実している (+14.6%)」、「通学しやすい場所に学校がある (+13.9%)」が上位5項目を占め、地域での活動や交流、生活利便性に関する満足度が高い傾向にある。一方、否定的意見は、「仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用し

やすい（+24.2%）」、「公共施設は、使い勝手良く便利である（+22.5%）」、「自分のことを好ましく感じる（+20.5%）」、「行政サービスのデジタル化が進んでいる（+18.4%）」、「町内に対して愛着を持っている（+18.4%）」が上位5項目となり、デジタル環境や公共施設、自己肯定感・地域への愛着に関する満足度が低い傾向にある。

また、「どちらともいえない」は、「介護・福祉施設のサービスが受けやすい（+0.4%）」、「空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる（-1.4%）」、「適切な収入を得るための機会がある（-2.0%）」、「公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる（-2.4%）」、「町内の人が困っていたら手助けする（-2.6%）」が上位5項目を占める。

居住年数の長い高齢者と比較し、「非常にあてはまる」・「ある程度あてはまる」の合計（数値差）が多い上位5項目（単位：％）

順位	項目	「非常にあてはまる」・「ある程度あてはまる」の合計	居住年数の長い高齢者との数値差
1	問 25-10 若者が活躍しやすい	33.0	+ 15.2
2	問 25-2 地域活動への参加が盛んである	48.9	+ 14.8
3	問 25-8 町内の人自分が自分をどう思っているか気になる	30.9	+ 14.7
4	問 24-4 飲食を楽しめる場所が充実している	32.9	+ 14.6
5	問 24-13 通学しやすい場所に学校がある	47.9	+ 13.9

居住年数の長い高齢者と比較し、「全くあてはまらない」・「あまりあてはまらない」の合計（数値差）が多い上位5項目（単位：％）

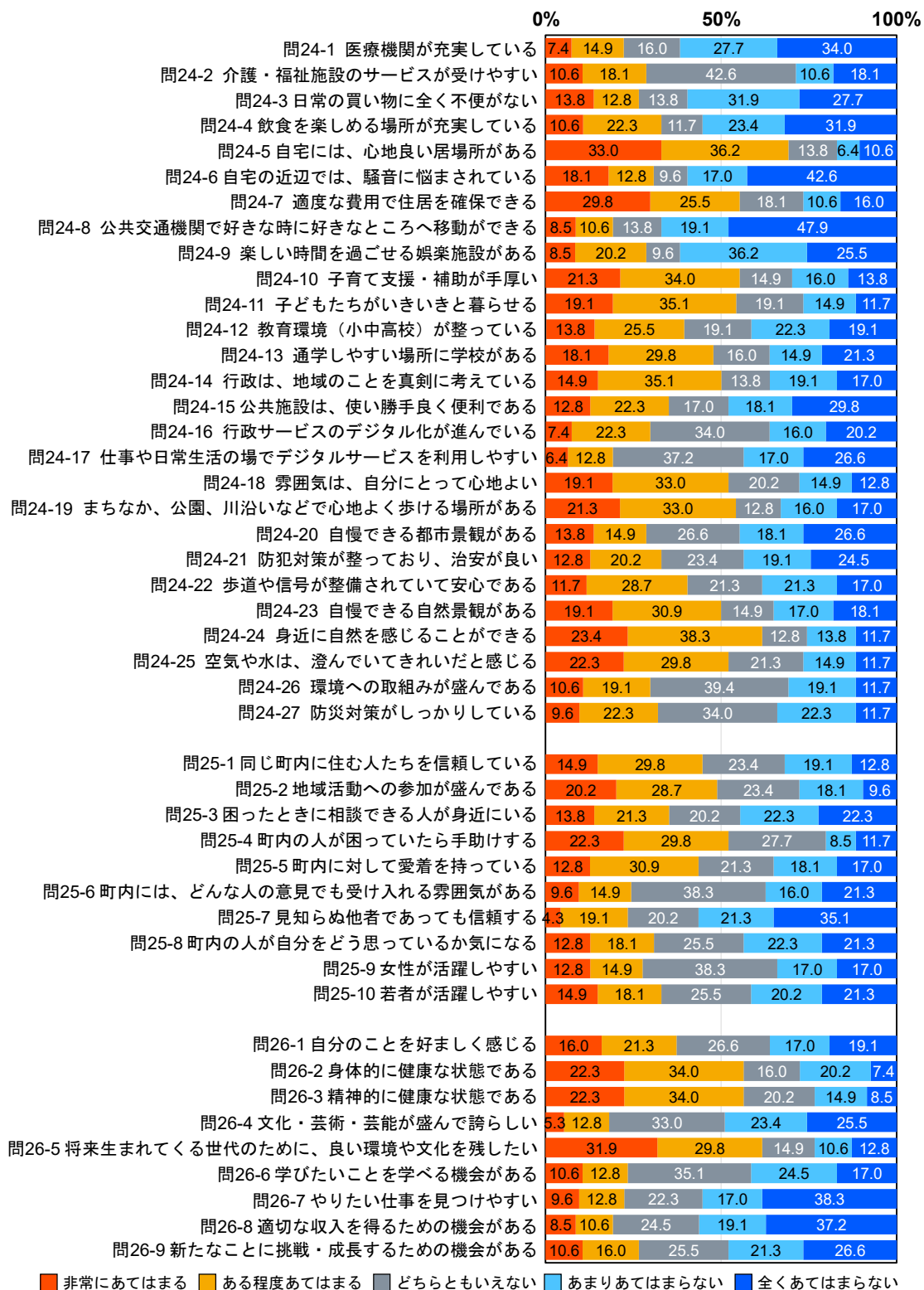
順位	項目	「全くあてはまらない」・「あまりあてはまらない」の合計	居住年数の長い高齢者との数値差
1	問 24-17 仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい	43.6	+ 24.2
2	問 24-15 公共施設は、使い勝手良く便利である	47.9	+ 22.5
3	問 26-1 自分のことを好ましく感じる	36.1	+ 20.5
4	問 24-16 行政サービスのデジタル化が進んでいる	36.2	+ 18.4
4	問 25-5 町内に対して愛着を持っている	35.1	+ 18.4

居住年数の長い高齢者と比較し、「どちらともいえない」が多い上位5項目（単位：％）

順位	項目	「どちらともいえない」の割合	居住年数の長い高齢者との数値差
1	問 24-2 介護・福祉施設のサービスが受けやすい	42.6	+ 0.4
2	問 24-25 空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる	21.3	- 1.4
3	問 26-8 適切な収入を得るための機会がある	24.5	- 2.0
4	問 24-8 公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる	13.8	- 2.4
5	問 25-4 町内の人自分が困っていたら手助けする	27.7	- 2.6

参考：新規移住した若年者における生活環境・人間関係・自分らしい生き方に対する満足度グラフ

問24～26：生活環境・人間関係・自分らしい生き方満足度一覧 (新規移住した若年者)



3) 居住年数の長い高齢者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度の傾向

居住年数の長い高齢者では、新規移住した若年者と比較し、肯定的意見は、「感染症予防対策の推進と充実（+21.8%）」、「交通安全対策の推進（+19.9%）」、「成人保健対策の推進と充実（+19.6%）」、「生涯学習の充実（+17.3%）」、「社会参加と生きがいの支援（+17.2%）」が上位5項目を占め、健康づくりや安全、生涯学習・社会参加に関する満足度が高い傾向にある。一方、否定的意見は、「広域交通網の整備（+12.4%）」、「財政運営の健全化（+6.9%）」、「障がい・精神福祉の充実（+5.1%）」、「地域公共交通網の利便性向上（+4.8%）」、「雪に強い生活環境づくり（+4.2%）」が上位5項目となり、公共交通や生活基盤、行政運営・福祉に関する満足度が低い傾向にある。

また、「わからない」は、「児童福祉の充実（+15.1%）」、「自治体DXの推進（+14.5%）」、「母子保健対策の推進と充実（+10.7%）」、「家庭教育支援の充実（+10.6%）」、「町民ニーズに対応できる職員の育成（+9.1%）」が上位5項目を占める。

新規移住した若年者と比較し、「満足」・「やや満足」の合計（数値差）が多い上位5項目（単位：％）

順位	項目	「満足」・「やや満足」の合計	新規移住した若年者との数値差
1	項目 4-4 感染症予防対策の推進と充実	64.3	+21.8
2	項目 5-11 交通安全対策の推進	50.8	+19.9
3	項目 4-3 成人保健対策の推進と充実	61.1	+19.6
4	項目 3-5 生涯学習の充実	41.7	+17.3
5	項目 4-8 社会参加と生きがいの支援	47.0	+17.2

新規移住した若年者と比較し、「不満」・「やや不満」の合計（数値差）が多い上位5項目（単位：％）

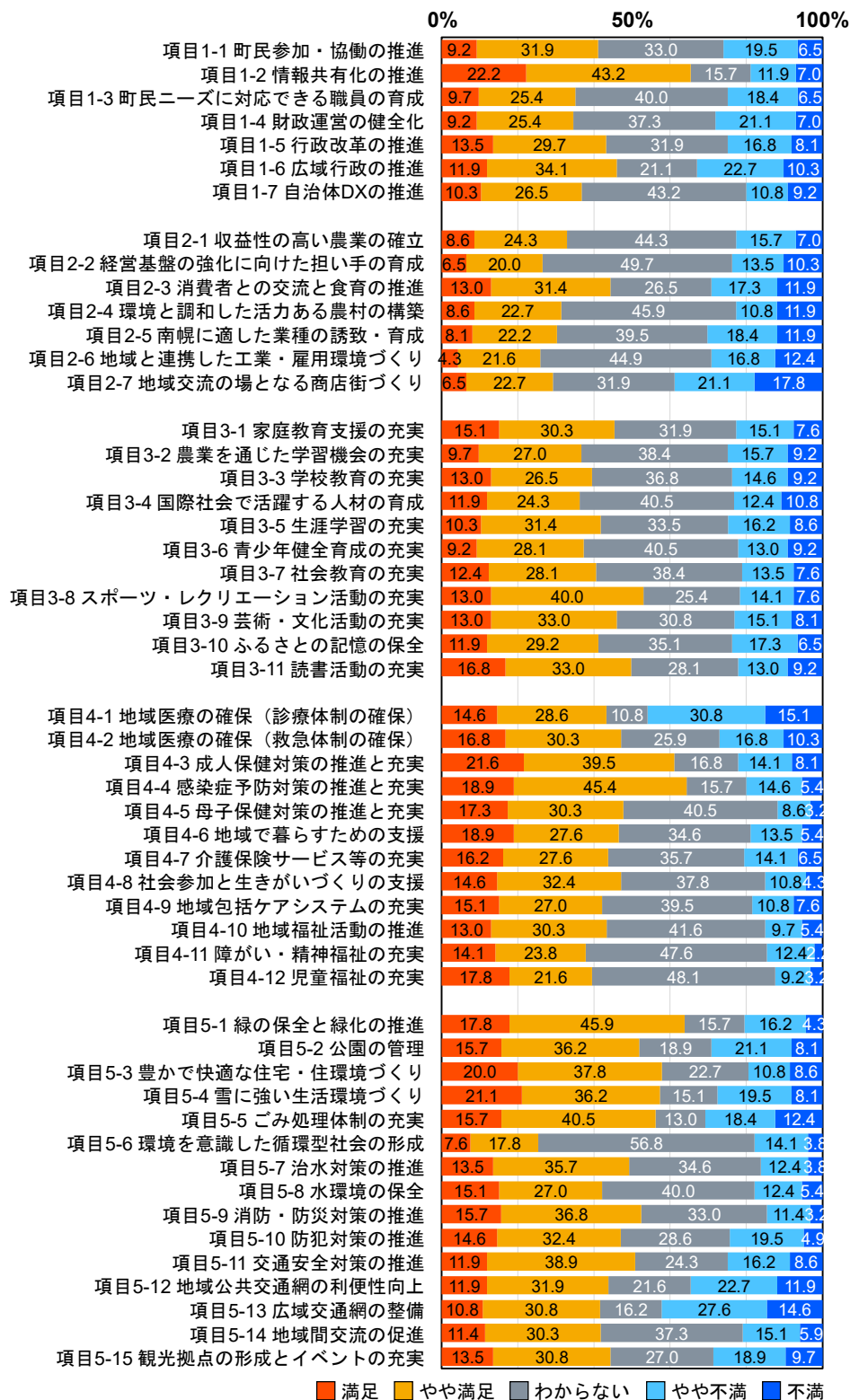
順位	項目	「不満」・「やや不満」の合計	新規移住した若年者との数値差
1	項目 5-13 広域交通網の整備	42.2	+12.4
2	項目 1-4 財政運営の健全化	28.1	+6.9
3	項目 4-11 障がい・精神福祉の充実	14.5	+5.1
4	項目 5-12 地域公共交通網の利便性向上	34.6	+4.8
5	項目 5-4 雪に強い生活環境づくり	27.6	+4.2

新規移住した若年者と比較し、「わからない」が多い上位5項目（単位：％）

順位	項目	「わからない」の割合	新規移住した若年者との数値差
1	項目 4-12 児童福祉の充実	48.1	+15.1
2	項目 1-7 自治体 DX の推進	43.2	+14.5
3	項目 4-5 母子保健対策の推進と充実	40.5	+10.7
4	項目 3-1 家庭教育支援の充実	31.9	+10.6
5	項目 1-3 町民ニーズに対応できる職員の育成	40.0	+9.1

参考：居住年数の長い高齢者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度グラフ

問18：まちづくり満足度一覧（居住年数の長い高齢者）



満足 やや満足 わからない やや不満 不満

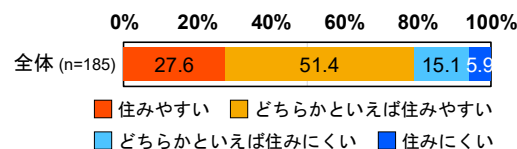
4) 居住年数の長い高齢者における幸福感や地域における暮らしやすさに対する認識の傾向

暮らしやすさでは、「住みやすい (27.6%)」と「どちらかといえば住みやすい (51.4%)」を合わせて約8割を占め、居住年数の長い高齢者の多くが南幌町を住みやすいと感じている。「どちらかといえば住みにくい (15.1%)」、「住みにくい (5.9%)」と回答した人は、2割未満となる。

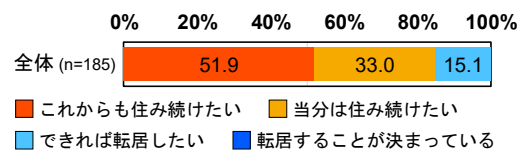
将来の定住意欲では、「これからも住み続けたい (51.9%)」と「当分は住み続けたい (33.0%)」を合わせて8割を超え、居住年数の長い高齢者の多くが住み続ける意向を示している。「転居することが決まっている」はなく、「できれば転居したい (13.8%)」の転居志向は2割未満となる。

現在の幸福度では、「幸福 (8～10点)」は33.0%、「やや幸福 (6～7点)」は27.5%、「普通 (5点)」は16.8%となっており、幸福感が中～高程度の層が約8割を占めている。一方で、「不幸 (0～2点)」は7.6%、「やや不幸 (3～4点)」は15.1%となっており、幸福感が低い層も約2割存在している。

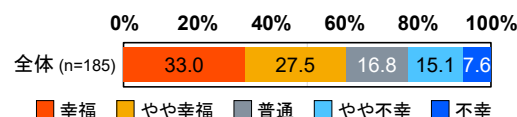
問14：南幌町は住みよいまちだと思いますか (居住年数の長い高齢者)



問15-1：これからも南幌町に住み続けたいと思いますか (居住年数の長い高齢者)



問19：現在、どの程度幸せですか (居住年数の長い高齢者)



次に、生活環境・人間関係・自分らしい生き方に対する満足度では、新規移住した若年者と比較し、肯定的意見は、「空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる (+7.3%)」、「自分のことを好ましく感じる (+7.1%)」、「困ったときに相談できる人が身近にいる (+6.5%)」、「行政サービスのデジタル化が進んでいる (+6.0%)」、「介護・福祉施設のサービスが受けやすい (+5.9%)」が上位5項目を占め、生活の安心感や支援の受けやすさに関する満足度が高い傾向にある。一方、否定的意見は、「町内の人が自分をどう思っているか気になる (+7.2%)」、「やりたい仕事を見つけやすい (+6.9%)」、「適切な収入を得るための機会がある (+3.7%)」、「自宅には、心地良い居場所がある (+1.4%)」、「飲食を楽しめる場所が充実している (+1.0%)」が上位5項目となり、就労や収入機会、生活利便性に関する満足度が低い傾向にある。

また、「どちらともいえない」は、「地域活動への参加が盛んである (+20.9%)」、「公共施設は、

使い勝手良く便利である（+20.8%）」、「子育て支援・補助が手厚い（+20.2%）」、「若者が活躍しやすい（+19.9%）」、「行政は、地域のことを真剣に考えている（+19.2%）」が上位5項目を占める。

新規移住した若年者と比較し、「非常にあてはまる」・「ある程度あてはまる」の合計（数値差）が多い上位5項目（単位：％）

順位	項目	「非常にあてはまる」・「ある程度あてはまる」の合計	新規移住した若年者との数値差
1	問 24-25 空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる	59.4	+7.3
2	問 26-1 自分のことを好ましく感じる	44.4	+7.1
3	問 25-3 困ったときに相談できる人が身近にいる	41.6	+6.5
4	問 24-16 行政サービスのデジタル化が進んでいる	35.7	+6.0
5	問 24-2 介護・福祉施設のサービスが受けやすい	34.6	+5.9

新規移住した若年者と比較し、「全くあてはまらない」・「あまりあてはまらない」の合計（数値差）が多い上位5項目（単位：％）

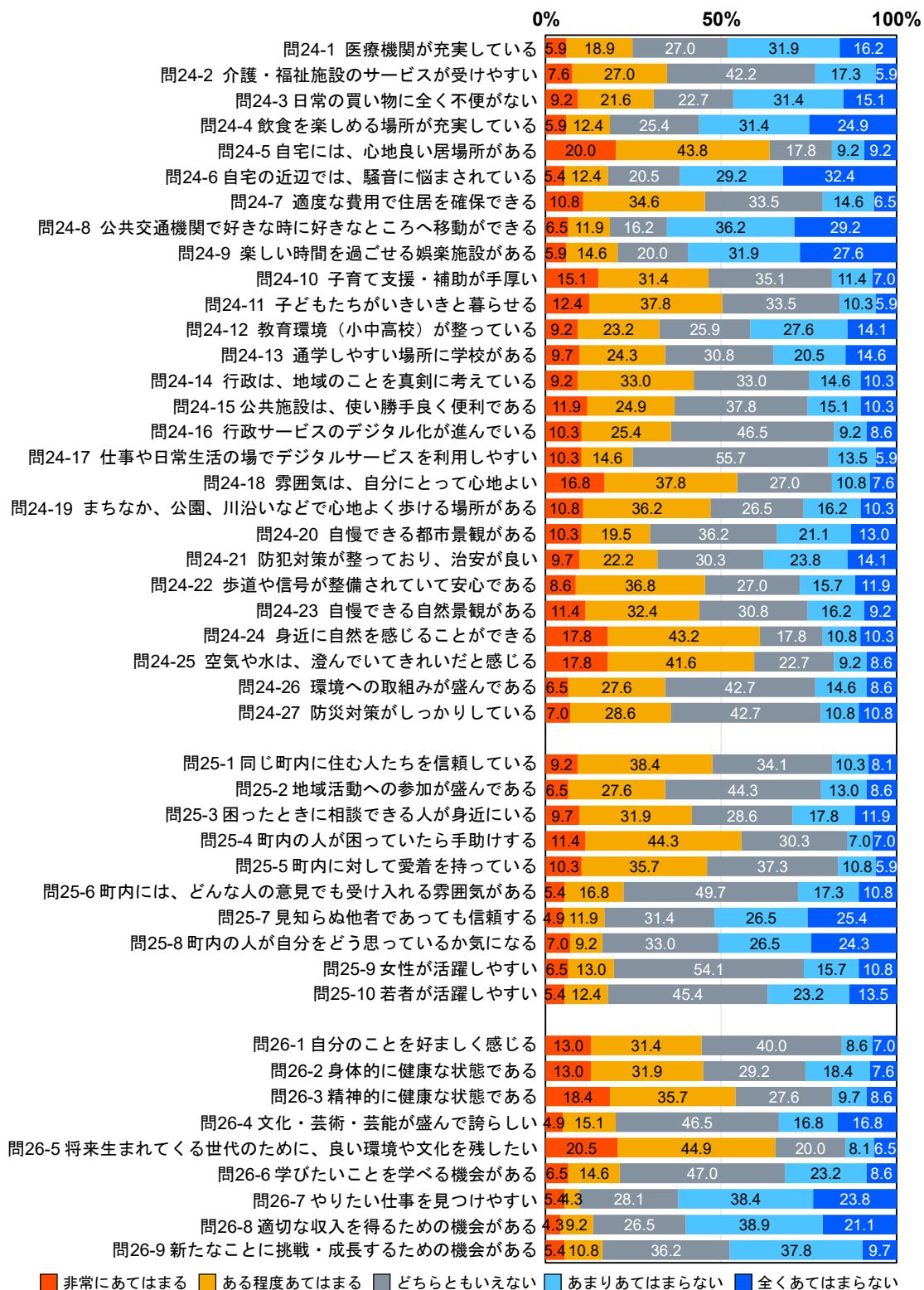
順位	項目	「全くあてはまらない」・「あまりあてはまらない」の合計	新規移住した若年者との数値差
1	問 25-8 町内の人自分が自分をどう思っているか気になる	50.8	+7.2
2	問 26-7 やりたい仕事を見つけやすい	62.2	+6.9
3	問 26-8 適切な収入を得るための機会がある	60.0	+3.7
4	問 24-5 自宅には、心地良い居場所がある	18.4	+1.4
5	問 24-4 飲食を楽しめる場所が充実している	56.3	+1.0

新規移住した若年者と比較し、「どちらともいえない」が多い上位5項目（単位：％）

順位	項目	「どちらともいえない」の割合	新規移住した若年者との数値差
1	問 25-2 地域活動への参加が盛んである	44.3	+20.9
2	問 24-15 公共施設は、使い勝手良く便利である	37.8	+20.8
3	問 24-10 子育て支援・補助が手厚い	35.1	+20.2
4	問 25-10 若者が活躍しやすい	45.4	+19.9
5	問 24-14 行政は、地域のことを真剣に考えている	33.0	+19.2

参考：居住年数の長い高齢者における生活環境・人間関係・自分らしい生き方に対する満足度グラフ

問24～26：生活環境・人間関係・自分らしい生き方満足度一覧 (居住年数の長い高齢者)



3 まとめ

調査結果に基づき、町民全体における現状と課題は、「町への愛着と定住意向」、「生活環境に対するニーズと満足度」、「地域とのつながりと、多様な主体が働き・活躍しやすい環境」という3つの論点として整理できる。

また、新規移住した若年者と居住年数の長い高齢者を抽出すると、それぞれの論点は「新規移住した若年者における子育て・家庭生活を起点とした価値観」と「居住年数の長い高齢者における生活基盤と地域とのつながりを起点とした価値観」として整理できる。

3.1 論点1 町への愛着と定住意向

2.2 1)『住みやすさ』及び2)『将来の定住意欲』の結果を見ると、「住みやすい」・「どちらかといえば住みやすい」とする割合は約8割と高く、「これからも住み続けたい」・「当分は住み続けたい」とする割合も同様に約8割を占めている。これらの結果から、町民の多くは南幌町を住みやすいと感じ、今後も住み続ける意向を持っていることがうかがえる。

一方で、「できれば転居したい」住民の理由を見ると、「買い物が不便」、「医療・保健福祉の不安」、「冬の除雪が大変」、「通勤・通学が不便」、「仕事や働き先がない」など、生活基盤や就業環境に関わる項目が多く挙げられている。特に若年層では、通勤・通学や仕事、高齢層では医療や除雪への不安が相対的に高く、年代によって定住意向を左右する要因に違いがみられる。

これらの結果から、町民全体として定住意向は高いものの、その背景には生活基盤に対する不満や将来への不安が一定程度存在しており、定住意向が必ずしも安定的なものではないことがうかがえる。

以上を踏まえると、今後は現在の住みやすさを維持しつつ、買い物、医療、交通、除雪、就業など、定住意向に影響を与える生活基盤上の課題への対応を進めることで、町民の定住意向をより安定的なものとしていく視点が求められる。

<町民における町への愛着と定住意向の現状・課題（要約）>

- ・町民の多くは南幌町を住みやすいと感じ、今後も住み続ける意向を持っている
- ・一方で、買い物、医療、交通、除雪、仕事など、生活基盤や就業環境への不満・不安がみられる
- ・年代によって転居を考える理由が異なり、定住意向を支える条件にも違いがある

<町民における定住意向の維持・向上に向けて考えられる対応策（案）>

- ・買い物、医療、交通、除雪など生活基盤に関する課題への重点的な対応
- ・若年層には通勤・通学や働く場、高齢層には医療・移動支援など、年代に応じた対策の充実
- ・現在の住みやすさを支える住環境や安心感の維持・向上 等

3.2 論点2 生活環境に対するニーズと満足度

2.2 4)『今後の人口減少を抑えるために重点的にすべきと思う取組み』の結果を見ると、「公共交通機関の充実」、「店舗など商業施設の誘致」、「医療・保健福祉の充実」が上位に挙げられており、町民は日常生活を支える移動手段や買い物環境、医療・福祉体制の充実を強く求めていることがうかがえる。

一方で、2.4 3)『生活環境に対する満足度』を見ると、「自宅には、心地良い居場所がある」、「身近に自然を感じることができる」等の項目では高い評価がみられるものの、「公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる」、「楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある」、「飲食を楽しむ場所が充実している」といった項目では不満が大きくなっている。

これらの結果から、南幌町は自然や住環境、身近な暮らしの安心感には強みを持つ一方で、移動、消費、余暇といった生活利便性に関わる分野では課題を抱えており、町民が重視する要素と現状の満足度との間にギャップがみられる。

以上を踏まえると、今後は自然や住環境といった町の強みを維持しつつ、公共交通、商業機能、医療・福祉など生活利便性の向上に向けた取組みを進めることで、町民の暮らしやすさの実感をさらに高めていく視点が求められる。

<町民における生活環境に対するニーズと満足度の現状・課題（要約）>

- ・町民は公共交通、商業施設、医療・保健福祉など、生活基盤の充実を強く求めている
- ・自然や住環境、身近な居場所に対する満足度は高い
- ・一方で、移動、買い物、飲食、娯楽など生活利便性に関する満足度は低い

<町民における生活環境の向上に向けて考えられる対応策（案）>

- ・公共交通機関の利便性向上や移動手段の確保
- ・商業機能や日常の買い物環境、飲食・余暇機能の充実
- ・医療・保健福祉体制の充実と、日常生活を支える基盤整備の推進 等

3.3 論点3 地域とのつながりと、多様な主体が働き・活躍しやすい環境

2.4 4)『人間関係に対する満足度』及び5)『自分らしい生き方に対する満足度』の結果を見ると、「町内の人が困っていたら手助けする」、「同じ町内に住む人たちを信頼している」、「町内に対して愛着を持っている」といった項目では一定の肯定的な回答がみられ、地域におけるつながりや支え合いの意識は一定程度形成されていることがうかがえる。一方で、「若者が活躍しやすい」、「どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある」といった項目では相対的に評価が低く、多様な主体が役割を持ち、活躍しやすい環境については課題がみられる。

また、自分らしい生き方に対する満足度を見ると、「やりたい仕事を見つけやすい」、「適切な収入を得るための機会がある」、「新たなことに挑戦・成長するための機会がある」といった項目で評価が低く、就業機会や挑戦・成長の場に対する満足度にも弱さがみられる。

これらの結果から、町内においては地域とのつながりや支え合いといった基盤は一定程度形成されている一方で、それを基に若者や移住者、女性など多様な主体が働き、役割を持ち、活躍できる環境の整備が十分とはいえない状況がうかがえる。

以上を踏まえると、今後は地域におけるつながりや支え合いといった強みを維持しつつ、多様な主体が地域の中で働き、挑戦し、役割を持って活躍できる環境づくりを一体的に進めていく視点が求められる。

<町民における地域とのつながりと、多様な主体が働き・活躍しやすい環境の現状・課題（要約）>

- ・地域内の信頼や支え合い、町への愛着は一定程度みられる
- ・一方で、若者や多様な主体が活躍しやすい環境には課題がある
- ・就業機会や収入、挑戦・成長の機会に対する満足度が低い

<町民における多様な主体が働き・活躍しやすい環境づくりに向けて考えられる対応策（案）>

- ・若者や移住者、女性など多様な主体が地域で役割を持てる仕組みづくり
- ・地域内での就業機会の創出や、多様な働き方の導入促進
- ・新たな挑戦や活動を後押しする支援（起業支援、活動機会の提供等） 等

3.4 論点 4 新規移住した若年者における子育て・家庭生活を起点とした価値観

比較分析の結果を見ると、新規移住した若年者は、居住年数の長い高齢者と比べて「自治体DXの推進」、「財政運営の健全化」、「経営基盤の強化に向けた担い手の育成」、「児童福祉の充実」、「農業を通じた学習機会の充実」等で肯定的意見が高く、行政運営や農業人材の育成、子どもの学びに関する分野で比較的前向きな評価を示している。

一方で、否定的意見は、「家庭教育支援の充実」、「ごみ処理体制の充実」、「母子保健対策の推進と充実」、「児童福祉の充実」、「広域行政の推進」で高く、子育て支援や生活基盤、行政サービスに関する分野で課題認識が強い。

また、「わからない」とする割合は、「成人保健対策の推進と充実」、「広域交通網の整備」、「社会参加と生きがいのづくりの支援」、「介護保険サービス等の充実」、「交通安全対策の推進」で高く、自身や家族の現在の生活に直結しにくい分野ほど認識が及んでいない傾向がみられる。

これらの結果から、新規移住した若年者は、町を評価する視点が子育て、教育、家族生活など、現在の家庭生活に密接に関わる領域に集中しており、医療・介護や社会参加、広域交通など、長期居住や加齢に伴って重要性が増す分野は、まだ実感を持ちにくい状況にあることがうかがえる。

以上を踏まえると、新規移住した若年者に対しては、子育て・教育・生活基盤に関する施策の充実を図るとともに、将来的な定住を見据え、地域との接点や中長期的な暮らしの見通しを持てるような情報提供・関係づくりを進めていく視点が求められる。

<新規移住した若年者における現状・課題（要約）>

- ・行政運営や農業人材の育成、子どもの学びに関する分野では比較的前向きな評価がみられる
- ・一方で、家庭教育支援、母子保健、児童福祉、ごみ処理など、子育て・家庭生活に直結する分野で課題認識が強い
- ・医療・介護、社会参加、広域交通等は「わからない」が多く、中長期的な生活課題としてはまだ実感が薄い

<新規移住した若年者への対応として考えられる取組み（案）>

- ・子育て、教育、母子保健、生活基盤に関する支援の充実
- ・移住後の生活不安を軽減する情報提供や相談体制の強化
- ・地域活動や住民同士のつながりに触れる機会の創出
- ・将来的な定住を見据えた、医療・交通・地域サービスに関する見通しの共有 等

3.5 論点 5 居住年数の長い高齢者における生活基盤と地域とのつながりを起点とした価値観

比較分析の結果を見ると、居住年数の長い高齢者は、新規移住した若年者と比べて「感染症予防対策の推進と充実」、「交通安全対策の推進」、「成人保健対策の推進と充実」、「生涯学習の充実」、「社会参加と生きがいづくりの支援」等で肯定的意見が高く、健康維持や安全、生きがいづくりに関する分野で比較的高い評価を示している。

一方で、否定的意見は、「広域交通網の整備」、「財政運営の健全化」、「障がい・精神福祉の充実」、「地域公共交通網の利便性向上」、「雪に強い生活環境づくり」で高く、交通や生活基盤、福祉分野における課題認識が強い。

また、新規移住した若年者と比べて「わからない」が多い項目には、「児童福祉の充実」、「自治体DXの推進」、「母子保健対策の推進と充実」、「家庭教育支援の充実」、「町民ニーズに対応できる職員の育成」等が挙げられており、子育て世代向け施策や新しい行政サービスへの距離感もうかがえる。

これらの結果から、居住年数の長い高齢者は、医療、交通、安全、除雪、生きがいづくり等の自身の暮らしを支える生活基盤や地域とのつながりに関心が向きやすい一方で、子育て・教育やデジタル化など、現在の生活と直接結びつきにくい分野への関心は相対的に低い傾向がみられる。

以上を踏まえると、居住年数の長い高齢者に対しては、交通、医療、福祉、除雪等の日常生活を支える基盤の維持・改善を図り、長年住み続けてきた町で安心して暮らし続けられる環境を整えていく視点が求められる。

<居住年数の長い高齢者における現状・課題（要約）>

- ・健康維持、安全、社会参加、生きがいづくりに関する分野では比較的高い評価がみられる
- ・一方で、広域交通、地域公共交通、福祉、除雪など生活基盤に関する課題認識が強い
- ・子育て施策や自治体DXなど、現在の生活と距離のある分野は「わからない」が相対的に多い

<居住年数の長い高齢者への対応として考えられる取組み（案）>

- ・交通、医療、福祉、除雪など、高齢期の暮らしを支える生活基盤の充実
- ・日常生活を維持しやすい移動支援や生活支援の確保
- ・地域で安心して暮らし続けられる環境の整備
- ・デジタル化や新たな行政サービスについて、わかりやすく伝える取組みの充実 等

4 参考

4.1 新規移住した若年者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度、幸福感や地域における暮らしやすさに関するモデル

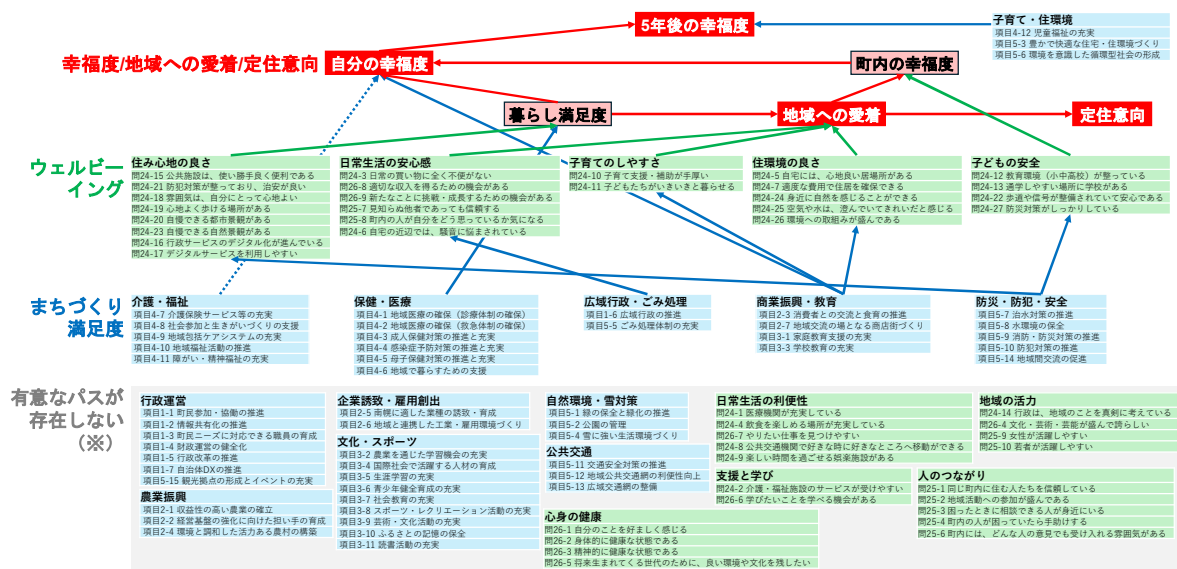
前項の回答結果を基に、まちづくりに係る施策に対する満足度と、幸福感や地域における暮らしやすさによる地域への愛着、定住意向への影響度を統計的に分析した。まちづくりに係る施策に対する満足度は52項目、生活環境・人間関係・自分らしい生き方に対する満足度は47項目あり、それぞれ設問数が多いため、各設問が地域への愛着、定住意向へ及ぼす影響度は非常に小さくなり、効果の検証が困難であることから、統計手法である「クラスタリング(クラスター分析)」を行い、グループ内で回答傾向が類似する設問を10程度の大項目(クラスター)に集約し、集約した大項目を対象に項目間の相関関係を分析した。

クラスタリングの結果、施策52項目は12個のクラスター、生活環境・人間関係・自分らしい生き方に関する47項目は10個のクラスターに集約し、相関関係を分析した。分析の結果、新規移住した若年者では、まちづくり満足度、生活環境・人間関係・自分らしい生き方は、「暮らし満足度」と「地域への愛着」に集約され、幸福度や定住意向が向上するというモデルが構築された。

このモデルでは、「自分の幸福度」は、「暮らし満足度」と「町内の幸福度」、「商業振興・教育」により説明され、これらの3項目の高低により幸福度の3割程度を説明することができる。また、「5年後の幸福度」は、「自分の幸福度」の他に「子育て・住環境」により説明される。

以上のことから、新規移住した若年者では、「子育てのしやすさ」や「子どもの安全」などの子育て環境、「住み心地の良さ」などの家庭・住環境の充実が「自分の幸福度」に強い影響を持つ一方、「町内の幸福度」は「5年後の幸福度」に有意な影響度がないことが特徴である。

まちづくり満足度・ウェルビーイングモデル(新規移住した若年者)



※ 今回構築したモデルの範囲では、統計的に有意な差が得られませんでした。これらの結果から施策の実施要否を評価するものではありません。

参考：新規移住した若年者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度のクラスタリング結果

まちづくり満足度におけるクラスタリング結果（新規移住した若年者）

クラスター1 行政運営	項目1-1 町民参加・協働の推進	クラスター7 保健・医療	項目4-1 地域医療の確保（診療体制の確保）
	項目1-2 情報共有の推進		項目4-2 地域医療の確保（救急体制の確保）
	項目1-3 町民ニーズに対応できる職員の育成		項目4-3 成人保健対策の推進と充実
	項目1-4 財政運営の健全化		項目4-4 感染症予防対策の推進と充実
	項目1-5 行政改革の推進		項目4-5 母子保健対策の推進と充実
	項目1-7 自治体DXの推進		項目4-6 地域で暮らすための支援
クラスター2 広域行政・ごみ処理	項目5-15 観光拠点の形成とイベントの充実	クラスター8 介護・福祉	項目4-7 介護保険サービス等の充実
	項目1-6 広域行政の推進		項目4-8 社会参加と生きがいづくりの支援
クラスター3 農業振興	項目5-5 ごみ処理体制の充実		項目4-9 地域包括ケアシステムの充実
	項目2-1 収益性の高い農業の確立		項目4-10 地域福祉活動の推進
	項目2-2 経営基盤の強化に向けた担い手の育成		項目4-11 障がい・精神福祉の充実
クラスター4 商業振興・教育	項目2-4 環境と調和した活力ある農村の構築	クラスター9 防災・防犯・安全	項目5-7 治水対策の推進
	項目2-3 消費者との交流と食育の推進		項目5-8 水環境の保全
	項目2-7 地域交流の場となる商店街づくり		項目5-9 消防・防災対策の推進
	項目3-1 家庭教育支援の充実		項目5-10 防犯対策の推進
クラスター5 企業誘致・雇用創出	項目3-3 学校教育の充実		項目5-14 地域間交流の促進
	項目2-5 南幌に適した業種の誘致・育成	クラスター10 子育て・住環境	項目4-12 児童福祉の充実
クラスター6 文化・スポーツ	項目2-6 地域と連携した工業・雇用環境づくり		項目5-3 豊かで快適な住宅・住環境づくり
	項目3-2 農業を通じた学習機会の充実		項目5-6 環境を意識した循環型社会の形成
	項目3-4 国際社会で活躍する人材の育成	クラスター11 公共交通	項目5-11 交通安全対策の推進
	項目3-5 生涯学習の充実		項目5-12 地域公共交通網の利便性向上
	項目3-6 青少年健全育成の充実		項目5-13 広域交通網の整備
	項目3-7 社会教育の充実	クラスター12 自然環境・雪対策	項目5-1 緑の保全と緑化の推進
	項目3-8 スポーツ・レクリエーション活動の充実		項目5-2 公園の管理
	項目3-9 芸術・文化活動の充実		項目5-4 雪に強い生活環境づくり
	項目3-10 ふるさとの記憶の保全		
	項目3-11 読書活動の充実		

参考：新規移住した若年者における生活環境・人間関係・自分らしい生き方に対する満足度のクラスタリング結果

生活環境・人間関係・自分らしい生き方満足度におけるクラスタリング結果（新規移住した若年者）

クラスター1 日常生活の利便性	問24-1 私の暮らしている地域は、医療機関が充実している	クラスター7 住み心地の良さ	問24-15 私の暮らしている地域の公共施設は、使い勝手良く便利である
	問24-4 私の暮らしている地域は、飲食を楽しめる場所が充実している		問24-21 私の暮らしている地域は、防犯対策（交番・街燈・防犯カメラなど）が整っており、治安が良い
	問26-7 私の暮らしている地域は、やりたい仕事を見つけやすい		問24-18 私の暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
	問24-8 私の暮らしている地域は、公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる		問24-19 私の暮らしている地域は、まちなか、公園、川沿いなどで心地よく歩ける場所がある
	問24-9 私の暮らしている地域は、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある		問24-20 私の暮らしている地域は、自慢できる都市景観がある
クラスター2 日常生活の安心感	問24-3 私の暮らしている地域は、日常の買い物に全く不便がない	クラスター8 住環境の良さ	問24-23 私の暮らしている地域は、自慢できる自然景観がある
	問26-8 私の暮らしている地域は、適切な収入を得るための機会がある		問24-16 私の暮らしている地域は、行政サービスのデジタル化が進んでいる
	問26-9 私の暮らしている地域は、新たなことに挑戦・成長するための機会がある		問24-17 私の暮らしている地域は、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい
	問25-7 私は、見知らぬ他者であっても信頼する		問24-5 私の自宅には、心地良い居場所がある
	問25-8 私は、町内の人自分がどう思っているか気になる		問24-7 私の暮らしている地域は、適度な費用で住居を確保できる
クラスター3 支援と学び	問24-6 私の自宅の近辺では、騒音に悩まされている	クラスター9 人のつながり	問24-24 私の暮らしている地域は、身近に自然を感じることができる
	問24-2 私の暮らしている地域は、介護・福祉施設のサービスが受けやすい		問24-25 私の暮らしている地域の空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる
クラスター4 子どもの安全	問26-6 私の暮らしている地域は、学びたいことを学べる機会がある		問24-26 私の暮らしている地域は、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである
	問24-12 私の暮らしている地域は、教育環境（小中学校）が整っている		問25-1 私は、同じ町内に住む人たちを信頼している
クラスター5 子育てしやすい	問24-13 私の暮らしている地域は、通学しやすい場所に学校がある	クラスター10 心身の健康	問25-2 私の暮らしている地域は、地域活動（町内会・地域行事・防災活動など）への参加が盛んである
	問24-22 私の暮らしている地域は、歩道や信号が整備されていて安心である		問25-3 私の暮らしている地域は、困ったときに相談できる人が身近にいる
クラスター6 地域の活力	問24-27 私の暮らしている地域は、防災対策がしっかりしている		問25-4 私は、町内の人が困っていたら手助けする
	問24-10 私の暮らしている地域は、子育て支援・補助が手厚い		問25-6 この町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
	問24-11 私の暮らしている地域は、子どもたちがいきいきと暮らせる		問26-1 私は、自分のことを好ましく感じる
	問24-14 私の暮らしている地域は、地域のことを真剣に考えている		問26-2 私は、身体的に健康な状態である
	問26-4 私の暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい		問26-3 私は、精神的に健康な状態である
	問25-9 私の暮らしている地域は、女性が活躍しやすい		問26-5 私は、将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
	問25-10 私の暮らしている地域は、若者が活躍しやすい		

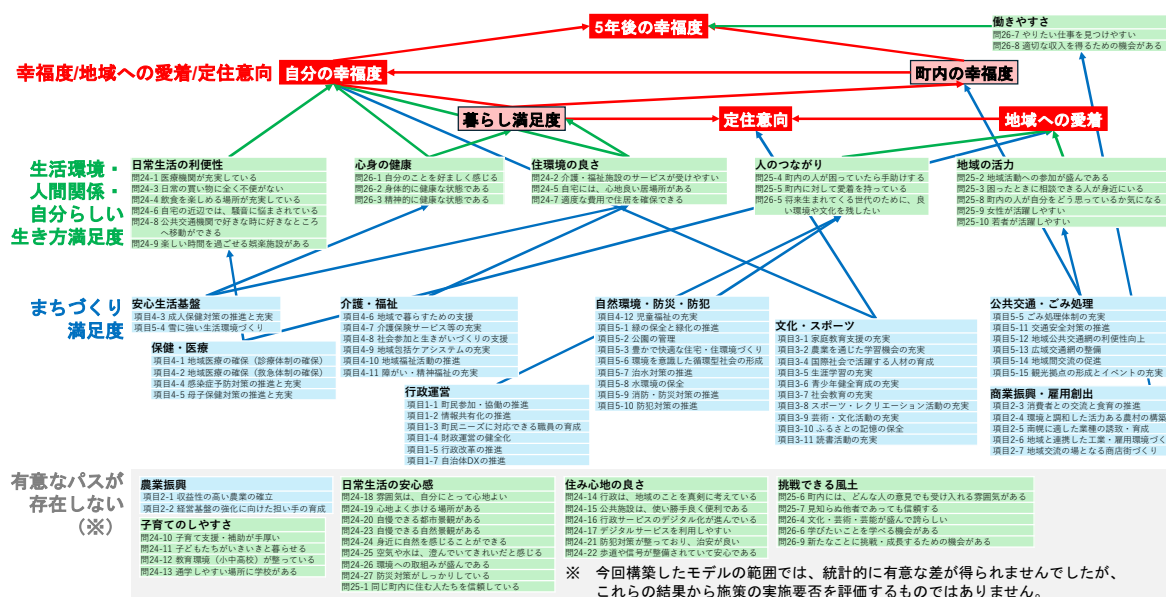
4.2 居住年数の長い高齢者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度、幸福感や地域における暮らしやすさに関するモデル

クラスタリングの結果、施策 52 項目は 9 個のクラスター、生活環境・人間関係・自分らしい生き方に関する 47 項目は 10 個のクラスターに集約し、相関関係を分析した。分析の結果、居住年数の長い高齢者では、新規移住した若年者と異なり、まちづくり満足度、人間関係・自分らしい生き方満足度は、「暮らし満足度」と「地域への愛着」に集約され、幸福度や定住意向が向上するというモデルが構築された。

このモデルでは、「自分の幸福度」は、「暮らし満足度」と「町内の幸福度」、「日常生活の利便性」、「心身の健康」、「住環境の良さ」、「文化・スポーツ」により説明され、これらの 6 項目の高低により幸福度の 2 割程度を説明することができる。また、「5 年後の幸福度」は、「自分の幸福度」と「町内の幸福度」、「働きやすさ」により説明される。

以上のことから、居住年数の長い高齢者では、家庭・住環境に加えて「人とのつながり」等の他者との人間関係の充実が「自分の幸福度」や「町内の幸福度」に強い影響を持つことが特徴である。

まちづくり満足度・ウェルビーイングモデル（居住年数の長い高齢者）



参考：居住年数の長い高齢者におけるまちづくりに係る施策に対する満足度のクラスタリング結果

まちづくり満足度におけるクラスタリング結果（居住年数の長い高齢者）

クラスター1 行政運営	項目1-1 町民参加・協働の推進	クラスター5 保健・医療	項目4-1 地域医療の確保（診療体制の確保）
	項目1-2 情報共有化の推進		項目4-2 地域医療の確保（救急体制の確保）
	項目1-3 町民ニーズに対応できる職員の育成		項目4-4 感染症予防対策の推進と充実
	項目1-4 財政運営の健全化		項目4-5 母子保健対策の推進と充実
	項目1-5 行政改革の推進	クラスター6 安心生活基盤	項目4-3 成人保健対策の推進と充実
	項目1-6 広域行政の推進		項目5-4 雪に強い生活環境づくり
	項目1-7 自治体DXの推進	クラスター7 介護・福祉	項目4-6 地域で暮らすための支援
クラスター2 農業振興	項目2-1 収益性の高い農業の確立		項目4-7 介護保険サービス等の充実
	項目2-2 経営基盤の強化に向けた担い手の育成		項目4-8 社会参加と生きがいづくりの支援
クラスター3 商業振興・雇用創出	項目2-3 消費者との交流と食育の推進		項目4-9 地域包括ケアシステムの充実
	項目2-4 環境と調和した活力ある農村の構築		項目4-10 地域福祉活動の推進
	項目2-5 南幌に適した業種の誘致・育成		項目4-11 障がい・精神福祉の充実
	項目2-6 地域と連携した工業・雇用環境づくり	クラスター8 自然環境・防災・防犯	項目4-12 児童福祉の充実
	項目2-7 地域交流の場となる商店街づくり		項目5-1 緑の保全と緑化の推進
クラスター4 文化・スポーツ	項目3-1 家庭教育支援の充実		項目5-2 公園の管理
	項目3-2 農業を通じた学習機会の充実		項目5-3 豊かで快適な住宅・住環境づくり
	項目3-3 学校教育の充実		項目5-6 環境を意識した循環型社会の形成
	項目3-4 国際社会で活躍する人材の育成		項目5-7 治水対策の推進
	項目3-5 生涯学習の充実		項目5-8 水環境の保全
	項目3-6 青少年健全育成の充実		項目5-9 消防・防災対策の推進
	項目3-7 社会教育の充実		項目5-10 防犯対策の推進
	項目3-8 スポーツ・レクリエーション活動の充実	クラスター9 公共交通・ごみ処理	項目5-5 ごみ処理体制の充実
	項目3-9 芸術・文化活動の充実		項目5-11 交通安全対策の推進
	項目3-10 ふるさとの記憶の保全		項目5-12 地域公共交通網の利便性向上
	項目3-11 読書活動の充実		項目5-13 広域交通網の整備
			項目5-14 地域間交流の促進
			項目5-15 観光拠点の形成とイベントの充実

参考：居住年数の長い高齢者における生活環境・人間関係・自分らしい生き方に対する満足度のクラスタリング結果

生活環境・人間関係・自分らしい生き方満足度におけるクラスタリング結果（居住年数の長い高齢者）

クラスター1 日常生活の利便性	問24-1 私の暮らしている地域は、医療機関が充実している	クラスター6 日常生活の安心感	問24-18 私の暮らしている地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
	問24-3 私の暮らしている地域は、日常の買い物に全く不便がない		問24-19 私の暮らしている地域は、まちなか、公園、川沿いなどで心地よく歩ける場所がある
	問24-4 私の暮らしている地域は、飲食を楽しめる場所が充実している		問24-20 私の暮らしている地域は、自慢できる都市景観がある
	問24-6 私の自宅の近辺では、騒音に悩まされている		問24-23 私の暮らしている地域は、自慢できる自然景観がある
	問24-8 私の暮らしている地域は、公共交通機関で好きな時に好きなところへ移動ができる		問24-24 私の暮らしている地域は、身近に自然を感じることができる
クラスター2 働きやすさ	問24-9 私の暮らしている地域は、楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある		問24-25 私の暮らしている地域の空気や水は、澄んでいてきれいだと感じる
	問26-7 私の暮らしている地域は、やりたい仕事を見つけやすい		問24-26 私の暮らしている地域は、リサイクルや再生可能エネルギー活用など、環境への取組みが盛んである
クラスター3 住環境の良さ	問26-8 私の暮らしている地域は、適切な収入を得るための機会がある		問24-27 私の暮らしている地域は、防災対策がしっかりしている
	問24-2 私の暮らしている地域は、介護・福祉施設のサービスが受けやすい	クラスター7 人のつながり	問25-1 私は、同じ町内に住む人たちを信頼している
	問24-5 私の自宅には、心地良い居場所がある		問25-4 私は、町内の人が困っていたら手助けする
クラスター4 子育てしやすい	問24-7 私の暮らしている地域は、適度な費用で住居を確保できる		問25-5 私は、町内に対して愛着を持っている
	問24-10 私の暮らしている地域は、子育て支援・補助が手厚い	クラスター8 地域の活力	問26-5 私は、将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい
	問24-11 私の暮らしている地域は、子どもたちがいきいきと暮らせる		問25-2 私の暮らしている地域は、地域活動（町内会・地域行事・防災活動など）への参加が盛んである
クラスター5 住み心地の良さ	問24-12 私の暮らしている地域は、教育環境（小中高校）が整っている		問25-3 私の暮らしている地域は、困ったときに相談できる人が身近にいる
	問24-13 私の暮らしている地域は、通学しやすい場所に学校がある		問25-8 私は、町内の人が自分をどう思っているか気になる
	問24-14 私の暮らしている地域の行政は、地域のことを真剣に考えている		問25-9 私の暮らしている地域は、女性が活躍しやすい
	問24-15 私の暮らしている地域の公共施設は、使い勝手良く便利である		問25-10 私の暮らしている地域は、若者が活躍しやすい
	問24-16 私の暮らしている地域は、行政サービスのデジタル化が進んでいる	クラスター9 挑戦できる風土	問25-6 この町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
	問24-17 私の暮らしている地域は、仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい		問25-7 私は、見知らぬ他者であっても信頼する
	問24-21 私の暮らしている地域は、防犯対策（交番・街燈・防犯カメラなど）が整っており、治安が良い		問26-4 私の暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
	問24-22 私の暮らしている地域は、歩道や信号が整備されていて安心である		問26-6 私の暮らしている地域は、学びたいことを学べる機会がある
			問26-9 私の暮らしている地域は、新たなことに挑戦・成長するための機会がある
		クラスター10 心身の健康	問26-1 私は、自分のことを好ましく感じる
			問26-2 私は、身体的に健康な状態である
			問26-3 私は、精神的に健康な状態である